

令和5年度 第2回横須賀市観光振興推進委員会 議事要旨

日 時：令和6年(2024年)3月28日(木) 14時30分～16時00分

場 所：横須賀市消防局庁舎3階 消防第3会議室

・昼間に観光地に歩いている人が非常に増えてきたというのが実感である。ただ、地元の人がまだコンテンツを体験していないので、もう少し地元の人に体験してもらい、地元の人がそれを拡散してくれるような施策があると良いと思っている。

・イベントに人が戻ってきたという実感がある。イベント会場に人を集めることについては、ある程度目標に達したが、周辺の商店街など、人が街に流れる工夫が課題である。

・様々なジャンルの活動をしているという印象で、それぞれ成果をあげていると思う。これに加えて全体の傘としてのキャッチフレーズのようなものがあればいい。「横須賀」というものがまずあって、その先はそのキャッチフレーズにはまる形にすると、お客さんも横須賀なのだというイメージが取りやすくなり、その構造をメディアプロモーション上などでも設計できると、より効果的になるのではないかと感じる。

・様々な施策の実証タイミングが年度の後半に寄っている。様々な制約があると思うが、お客様視点で一番魅力的な時期に実施できると良い。

・インバウンドは急速に回復している中で、現在感じている点は、インバウンドは一つのものを目的に来るよりも、1日楽しめるか、それとも3・4日楽しめるかという視点で来ていることである。そのような意味では、周辺の市町と連携した広域周遊ルートみたいなものを提案するのもあり得と思っている。

・MEGURUプロジェクトについて、今回も経済波及効果も上がっており、素晴らしいと思っている。こういった素晴らしいコンテンツで、良いものを体験した後に色々とお土産を買いたくなるため、ここに行けば横須賀のお土産を買って帰れるという場所があると良い。

・横須賀市はコンパクトに魅力が詰まっていて、かつ羽田空港からのアクセスも恵まれている点で言えば、今、日本全国がインバウンド消費で稼ごうと、すごくやる気になっているので、ぜひ横須賀市もインバウンドで稼ぐ力をつけてもらいたいと

思っている。日本国内にきたインバウンド旅行者をどの地域が獲得するかは、日本国内の地域間競争である。そのため、横須賀市も、ぜひ乗り遅れないように検討してほしいと思っている。

・横須賀市はこれまでも、インバウンドで色々なトライアルをしているが、観光立市の計画を作るときも、横須賀市にとってのインバウンドをどのように組み立てるか、非常に大きな課題であった。その中で米軍の家族等も含めた、いわゆるインバウンドとして横須賀市が持っている一番強いキラーコンテンツというもの、強い点は何であるのか、その辺も少しずつ明確にしながら、当然ターゲットも含めて行わなければいけない。

・日本の中で横須賀市は、ブランディングとしてはとても恵まれており、日本の国際便の大きなシェアを持っている羽田空港からとても近く、そして東京にはない山と海の自然に恵まれている。それを横須賀市にはぜひ生かしてほしいと考えている。

・ディステーション（旅の目的地）として横須賀市の強みをどう出していくのかが重要。キャッチフレーズやテーマは恐らくターゲット層やインバウンドと国内のお客様によって異なる。この辺をどう考えていくかというのは、基本計画の中で、インバウンドの問題も含めて大きな軸の一つになるのではないかな。

・横須賀市は、テクノロジー的にも非常に先進的な発祥の地であり、「もの作り」も行っており、そういう点での魅力がある。eスポーツやメタバースも、自治体の中では早くから取り組んでおり、国境を越えて受け入れられるコンテンツ発信を行っているので、それをより上手に、太く強くしていくのが良いと考える。アメリカ人、特に軍の関係で経験のある人にとって、横須賀という名前は大体耳にしたことがあり、結構有利なポジションにある地名なので、それも含めて何かうまく作戦を立てていけたら良いと思う。

・予算編成における3つのまちづくりのグランドデザインの中で、地域コミュニティの話をしていることは、全国の中では非常に珍しい。コミュニティを生かすことと観光戦略というのは、実は非常に密接につながってくるという話があると思う。その中で福祉や防災の話が出てくるが、実は観光とは関係ないという話ではなく、これはもしかすると横須賀の強みになると個人的に思っている。それから観光戦略は、従来の戦略をかなり強めていくということで良いと思っている。

・インバウンドにしても国内観光客にしても、受け入れる接点になるのは地域の人で、その人たちがいかにウェルカムであるとか、そのようなキャラクターを持って

いるかということで、重要な体験を与えることができるのだと思う。その点が非常に肝要である。

- ・観光地での観光客は増えているが、中心市街地にお金が落ちていないというのは、結構切実な話になっている。（地域の経済活動が）観光と上手く連携しながらやっていく必要があり、キーになっていくと思う。

- ・米海軍横須賀基地にいた方が、アメリカに戻って米海軍にいた人に横須賀でご飯食べたよ、などと話すと懐かしい、また行きたいなど思わせるように、コミュニティの中で情報発信として拡散するので、スモールインバウンドっていう言い方をしていたが、そのようなことを上手く活用できると面白いのではないかと感じる。

- ・様々な観光地や地域に行ったときに、夜に人が集まる場所はとても大事だと思っている。都市の中に賑わいの空間がないと、観光というのは薄っぺらになってしまう。人が夜にどのエリアで、どのようにいるかというトリップ調査が必要である。若い客層も含めて人がどこに滞留していて、ターゲット別にその客層をどのようにするか考えなければいけない。これは今後の宿題の一つになるかもしれない。

- ・横須賀市に当てはまるのは、日本がこの技術大国となる技術の発祥の地域でもあり、そして伝統文化があり、豊かな自然もある。横須賀市民は、そういう目で横須賀を見ていないのだが、様々な発信の仕方があると思う。

- ・横須賀市は、横須賀海軍工廠を含めて日本で一番早い段階から先端技術があったため、それをどのように表現するかということがある。今、横須賀市内には研究開発機能が非常に強いので、それと絡めた展開もあるかと思う。開国と言った時に、その開国の中にそのような産業とか技術だとか巧みだとかの要素も入れることは、あり得るかと思う。横須賀は、遥か昔から日本の近代をリードしてきた工業都市であり、それをどのようにアピールし活用するかということも検討が必要だと思う。

- ・文化庁の100年フードの中に、「海軍ゆかりの食文化」というものが入っているが、それをもう少し気軽にどこでも、という感じで何かできないかなと思っている。